

平成28年度教育委員会メールマガジン「日々の思い」の元原稿より

平成30年5月14日（月）

県教育委員会では、メールマガジンを月に1回発行しています。平成28年度に「日々の思い」という題名で掲載された文章の元原稿がありますので、ここに掲載したいと思えます。少々長くなるのをお許しください。

いしよのたのみて。あります。

春の田園風景は、とても心地がよいものです。私が生まれたいわきの夏井川河口のあたりでは、田の土が一度返される頃、川が下手の方でせき止められます。土が返されると、セキレイや雀が田に降り立ち、しきりに虫をついばむようになります。流れが遮られる日を境に、みるみる川の水かさが増えて、田を満たすまで水が増えた結果、田の入り口を開けると、勢いよく田の中に水が流れ込みます。

勢いよく流れ込む水に乗って、大きなナマズが田の中に紛れ込んだり、道ばたに名も知らぬ花が咲いてというような里山の風景が繰り広げられていきます。田にもう一度重機が入って、代掻きという作業が行われ、一週間もすると、田植え機が行き交い、早苗が心細げに行列よく水の中に並ぶようになるのです。

朝、キジが鳴き、やがては晩にホトトギスが鳴く季節になります。水田の緑色が日に日に濃くなっていくのを見ると、夏がいつのまにかにじり寄ってくるのを実感するのです。

蛙の声が鳴り止まない夏の夜は、遠く塩屋崎灯台の光が十数秒に1回、南の空を回ります。

海鳴りが響き、肌寒く感じるほどの風があるので、7月になっても、いつも寝るときの肌掛けが必要になります。夜のうちに肌掛けが遠くに離れてしまうと、風邪を引くときもあるのです。

秋になると、蛙の声が虫の声となり、黄金の穂が風にそよぎ、大風や大雨のことが頭から離れなくなります。倒れないままに刈り取られる稲の穂の、重みを持った様子を見るとなぜかうれしくなり、実りを実感します。トンボが飛びイナゴがはねる頃には、刈り取られた稲株につまずきながら、落ち補拾いを命じられたものです。一反の中を拾い歩くと、一合ぐらいの落ち穂が集まるのです。

新米を炊いた夜には、きらきらする一粒一粒を味わう楽しみがそこにはありました。今は、刈り取られると玄米の形になって袋詰めされた米が重ねられますが、子供の頃は、稲刈り、脱穀、籾刷り、という作業が毎週続き、米になるには八十八通りの作業が伴うという祖母の言葉を実感したものです。

そんな田園の里山の風景が、福島で育った皆さんのそれぞれの心の中に息づいていることでしょう。都会に出ても、海外に行っても、鳴く白鳥やウグイスの声がよみがえったり、流れる川や海の水の手触りがよみがえったり、盛られた飯やたくあんの香りがよみがえったりすると想像します。

教員採用の結果が報じられる頃になると、様々な思いが交錯します。福島で教員になって元気で働いている教え子達も多いのですが、首都圏で教員となっているかつての生徒も両手に余るほどの数なのです。

今、心から願ってやまないことがあります。是非、教員になって働いている首都圏の皆さんに、故郷に帰ってきてほしいのです。私の教師人生の中で、私が教えることができた皆さんの中で、他県で働く教員となった皆さんならなおさら、福島に帰ってきてほしいと心から願うのです。

野口シカの手紙を知っているでしょうか。故郷を離れ出世した息子の清作(英世)に送った手紙であります。

おまいの。しせ(出世)には。みなたまけ(驚き)ました。

わたくしもよろこんでをりまする。

(中略) はやくきてくたされ。はやくきてくたされ。

いしよの(一生の)たのみて。ありまする

その母と同じ思いで、一生の頼みでありますので、皆さん、是非、帰ってきてください。福島の復興と創生に力を貸してもらいたいのです。教員の仕事をする皆さん、または教員を望んでいる皆さん。福島に戻って、子供達を育てる力を尽くしてほしいのです。あるいは教員でなくても、この福島で育った様々な共通の思いの中にある皆さん。福島で働いて、子供達を育ててほしいのです。と言うようになったのは、私が年をとったからかもしれませんが、今、人の力こそが必要であると心から願うのです。

人は人を呼びます。人は人の心に火を灯します。人は人の言葉に心動かされます。人は、人の後姿を追い、人と共に生き始めます。

ずっと人材を放出してきた福島なら、逆に、何らかの方法で放出した人材を取り戻すことができるのではないか、放出した人々が人を連れて大勢で戻ってくればはしまいか、と考えます。福島の地で育ったという共通の思いと、骨や記憶に刻まれた福島の風景の刻印はその力になり得ないでしょうか。

まず、自分の子供達にもこの言葉を伝えなくてはなりません。今こそ、皆が戻ってきて美しい風景の中の実直な人柄の福島を支えてほしいと思うのです。何人でもいいので帰ってほしいのだと心から願います。このことは、私だけではなく、県内の教員の共通の願いではないでしょうか。

県内の教職員の皆さんと共に、この大地と海と空と風と山と谷と森と川と里山に恵まれた福島の恵みを次の世代に伝えましょう。今こそ、帰ってください。これからも帰ってください。心から本当に願ってやみません。

百年かけても共に福島を取り戻しましょう。いしよのたのみて。ありまする。

教育実習がやがて始まります。教員採用試験の申し込みも始まります。5月の20日過ぎには申し込みが締め切られます。

磐城高校を卒業した皆さん。大学を卒業する皆さんばかりでなく、教員として都会で働いている卒業生の皆さん。是非、いわきに戻ってください。そのために、福島県の教員採用試験を受けてください。皆、磐城のコバルトブルーの空の下に集い、いわきをみんなで盛り上げましょう。